

夢、私たちに。 わたしのひとこと



言葉

八方 丸山 由紀子

最近、よく聞く「〇〇の会社を経営させていただきます。」言葉の使い方が違う！

「させていただく」この言葉が気になって仕方ありません。へりくだって使っているのに違いないとは分かってはいるのですが、耳障りな言葉です。自己主張するのではなく、するりと責任逃れができそうな言葉です。

言葉は生き物で、日々変化していくのは分かっているつもりです。ら抜き言葉はなんとなく慣れてきましたし、私自身、ちょっと若者っぽい言葉を使ってみて、友だちに「何それ？」と言われると、慌てて反省したりして。前記の言葉もいつの日か慣れ親しむ時が来るのでしょうか。

慣れ親しんだといえば、村内の医療機関に行くと聞こえてくる高齢者同士の会話。純粹の白馬の方言。白馬に住み始めたころは、きれいな言葉ではないと感じたのですが、40年近い時を経ると、ゆっくりとした口調が何となく心地よくて、和むひとときになります。

言葉とは人と人をつなぐものだと思います。それならば白馬に住む私たちは、白馬を訪れるお客様に「こんにちは、良いお天気ですね」など、ほんの一言でいい、言葉のおもてなしができたと思います。



私の決断

森上 雪岡 治

澄み切った青い空、北アルプスの白い山々、30数年前に見たスキー場。いまでも私の頭に残る景色が忘れられず「いつか、あの景色が毎日見られる場所に住みたい」それが私の夢でした。その思いがいま現実となり、早や6年がたちました。地域の方々には、大変お世話になり、また楽しく交流させて頂いて、「白馬に来てよかったな」と心から思います。

私の家族も、最初は「本当に大丈夫」などと言っていたのですが、いまは、スキーだけでなく、「いろいろなことを体験してみたいな」などと言ってくれることが多くなり、楽しく白馬の生活を送れるようになりました。冬はスキーに、夏は山歩き等、家族でできることがいろいろあり、喜んでいます。

「白馬に行くのだ」私の決断したことは、家族にとっても大変な思いだったのですが、いま、改めて胸を張れる時が来たと実感しています。

これからは、地域に何か貢献できることがあれば、進んで協力していきたいと思っています。



交流は文化の共有から

飯田 中村 敏治

私の住む飯田地区にも、最近とみに外国から移住された方が増え、文化・言葉の違いからほとんどの方は地区に加入せず、地区住民との交流もありませんままに生活をしています。

また、セカンドハウスでの年間生活者も増えており、同様に地区に加入せず地区住民との交流のないまま生活しています。

地区特有の文化を共有していただき、地区住民が負担している使役や公益の負担を共有することから交流が始まるのではないのでしょうか。

不況感漂う現在、地区のコミュニケーションを維持するにも権利が主張され義務が置き去りにされ続け大変難しくなってきました。例えば祭り等の伝統的文化は、ある意味新鮮なものとして外国の方には人気があり、見に来てくれます。

この様に、まずは文化の違いを共有することから交流が始まるのではないのでしょうか。

編集後記

白馬議会だより104号が発行になりました。今回も今までと同じで、議会報調査編集特別委員会の委員7名で編集させていただきました。

平成21年4月に初当選した私どもの新議員としての発行は、同年7月31日発行の第89号でしたが今回の発行で最後となり、次号からは新しい議員による発行になります。今のところ定例会ごとに年4回の発行ですが、さらに充実した内容の議会だよりを、皆様にお送りすることを期待します。

議会報調査編集特別委員会

| | |
|------|-------|
| 議長 | 下川 正剛 |
| 委員長 | 太田 修 |
| 副委員長 | 柏原 良章 |
| 委員 | 篠崎久美子 |
| 委員 | 太田 伸子 |
| 委員 | 田中 榮一 |
| 委員 | 小林 英雄 |
| 委員 | 松沢 貞一 |

白馬議会だより 104号
平成25年4月30日発行

発行 長野県白馬村議会
編集 議会報調査編集特別委員会
印刷 ㈲北辰印刷

〒399-9393 長野県北安曇郡白馬村
☎0261-72-5000 FAX0261-72-7001
http://www.vill.hakuba.lg.jp/assembly/assembly.html E-mail gikai@vill.hakuba.lg.jp